

2026年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	ミクロ経済学特別研究		
担当教員名	森 統		
ディプロマ・ポリシー (DP) との関係			
	DP1	DP2	DP3
	○		
科目のテーマ	<p>ミクロ経済学が扱う主要な項目として、消費者行動の理論、企業行動の理論、市場均衡、市場の失敗、不完全競争の理論、ゲーム理論による分析、非対称情報の経済理論、社会選択の理論などをあげることができる。</p> <p>これらの中から、受講者の関心や論文作成に伴う知識の必要性を考慮し、重点的に取り上げる題材を決める。選んだ項目について基礎固めをするとともに、より発展的で新しい展開がなされている内容にも触れながら、問題の分析力を高めることを目指す。</p>		
科目内容・方法等	<p>受講者の関心や知識の蓄積に基づき、取り上げるテキスト・文献を選ぶつもりである。授業においては、選んだテーマに従って、受講者がテキスト・文献の所定の箇所の内容に関する発表を行い、その理論の検討、発展・応用の可能性などを議論する。</p> <p>学期末には、課題を与えレポートの提出を求める予定である。</p> <p>テキスト(候補)・参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ』岩波書店1985年1988年 ・林貴志『ミクロ経済学(増補版)』ミネルヴァ書房 2013年 ・Mas-Collel, Whinston, and Green, <i>Microeconomic Theory</i>, Oxford University Pr.,1995 ・内外の専門ジャーナルの論文なども必要に応じて適宜取り上げる。 		
到達目標：	<p>ミクロ経済学の方法による洗練された理論分析ができるようになることを目指す。</p>		
評価方法及び評価基準：	<p>授業において適宜課す課題(発表・レポート等)の出来栄に応じて評価する。課題を全体で100点を満点とする点数で評価し、60点未満をF、60点以上～69点以下をC、70点以上～79点以下をB、80点以上をAとする4段階とし、C以上の評価に単位を認定する。</p> <p>各評価基準の目安は以下のとおりである。</p> <p>A評価：授業の内容の理解と応用にもとづいて専門的な理論分析ができる。</p> <p>B評価：授業の内容の理解に加えその幅広い応用ができる。</p> <p>C評価：授業の内容を理解している</p>		
授業の方法：	<p>上の「科目内容・方法等」に記した通り、受講者がテキスト・文献の所定の箇所に関する発表を行い、その理論の検討、発展・応用の可能性などを議論する。</p> <p>また、内容の深堀が必要となる場合には、講義による詳しい解説を行う</p>		